

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372900904		
法人名	有限会社 沙蔵		
事業所名	グループホーム花音(かのん)		
所在地	熊本県八代郡氷川町宮原588番地2、及び宮原字浜殿591番地		
自己評価作成日	平成26年4月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 NPOまい		
所在地	熊本市中央区草葉町1丁目13番205号室		
訪問調査日	平成26年5月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・管理者の住まいが2階にあり、緊急時にも速やかに対応することができ、安心して過ごせる。 ・太陽光発電、オール電化、スプリンクラーなど、消防設備の設置など安全性を考慮している。 ・花音では毎朝、体操と歌の合唱を実施し、身体機能の向上や仲間との触れ合いを大切にしている。 ・ギターや三味線を使用した独自の音楽セラピーを実施し、地域音楽愛好家の慰問も充実している。 ・ホームとデイサービスの理念は職員と共に作り、ご利用者とスタッフの癒しの場を目指している。 ・訪問看護ステーションや往診、訪問歯科などを利用し、医療連携体制の充実を図っている。 ・目の前には神社があり、恵まれた環境の中で、氷川町のみ馴染みの地域で過ごして頂ける。 ・「いきいきサロン」のお世話をしており、地域の皆さんとはすっかり馴染みの関係ができています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所の向かい側には神社、反対側にはお寺があり、地域の方にとって馴染みの風景の中に立地しています。</p> <p>いきいきサロンを継続され、地域の高齢者の福祉活動と共に地域の行事等を通して、福祉活動的視野に立ち、地域に根差した活動をされています。</p> <p>管理者・スタッフと共に事業所を地域に向けてさらに発信され、介護の質の向上と共に、今後の高齢者介護の在り様を模索されることを期待します。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	2年前にユニット増設したことで、理念の見直しをしたことで、より目指している方向を明確にしている。	開設当初の理念を基礎として、状況の変化に応じて見直しをされています。よりよいケアの実践に繋がるとして挨拶を重視されており、継続して実践していくことでスタッフの意識の向上にも繋がっているとのことです。	理念を具現化し、継続され更なる向上を目指されることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者が生まれ育ち、お世話になっている地域の方々へ、少しでも恩返ししたい気持ちで関わっている。	自治会へ加入し、地域の活動にも積極的に参加されています。地域との繋がりを継続していくために、月1回のいきいきサロンを継続されています。また、事業所周りの花壇の手入れなど、地域の方々の自主的なボランティアも受け入れられています。	利用者とともに地域の一員として、日常的な交流もとれることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症高齢者の方の見守りを行い、必要時は家族への連絡を行い、地域内における認知症高齢者の現状把握に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	介護業界の実態や当事業所の課題について助言を頂くと共に、事故やヒヤリハットについてもきちんと報告をしている。	運営推進会議は事業所の活動報告等が中心であり、実習生の受け入れや、夏祭りの作り物の報告もされているとのことです。そして状況に応じて、七夕飾りの手伝いなどの協力をお願いされています。	事業所の取り組んでいる具体的な課題等を提案し、運営推進会議の参加者より質問や意見、要望等を受けられて、サービスの向上に活かされることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村のみならず、近隣市町村の状況も参考にさせて頂き、情報の共有を図っている。	いきいきサロンや運営推進会議等への参加があり、連携はできているようです。事業所から行事や催し物への案内を積極的にされているとのことです。	市町村担当者への積極的に情報を提供し、協力関係をより強めていかれることを期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	その人の背景にあるものを理解できるように努めると共に、思いを受容し、ふれあいや言葉かけに配慮した関わり方を重視し、安心して頂けるよう対応している。	以前は廊下の端にセンサーが付いていましたが、生活の場には馴染まないと廃止をされています。現在はスタッフによる見守りで対応されているとのことです。	リスクについて家族と話し合いを繰り返すことで、利用者の安全を確保しつつ自由な暮らしが継続され、支援されていくことを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	昨年に転倒事故が発生し、家族への謝罪と行政への報告を行っている。職場は挨拶が基本であり、きちんと身を正すことで、ケアの質の向上を図れるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している入居者の方の補佐人と定期的に意見交換している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	内容の変更などが生じた場合は、全利用者家族に口頭で説明すると共に、書面での同意を得、信用維持に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	課題が発生した場合は、小さなことでもそのままにせず、きちんと家族に報告し、疑問や不安がないように信頼関係づくりに配慮している。	家族に日頃の様子を伝えたり、状況によっては居室内へ連絡用紙を設置したり、日頃から信頼を得る努力をされています。また自宅を訪問されて状況説明をされることもあるとのこと。	家族からの意見や要望は事業所にとって大切な宝です。より多くの意見や要望を出してもらえるような配慮を継続されることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が直接、会計士や労務士とやりとりする機会も設け、疑問が生じないように努めている。	職員の要望やシフト希望等の要望を聞くだけでなく、業務上の悩みやメンタル面のフォロー等、管理者が個別に対応されているとのこと。	職員のアイデアや気づきを取り入れ活かしていくことは働く意欲や質の向上にも繋がります。継続されることを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	他事業所の労務状況の情報を収集し参考にすることで、働きやすい職場環境の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	課題が発生した場合は、その場でミーティングや指導を行うことで、より適切なケアができるよう改善に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会との連携を充実させると共に、介護労働安定センターや県、町社会福祉協議会への相談や助言を載している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	9名のご利用者が様々な症状をお持ちであり、スタッフや利用者同士の関係性をいかに高め共生していけるか、互いをフォローしつつ共同生活を営んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安な気持ちをまずは受け入れ、本人にはご自分の意思を尊重し自由に過ごして頂く。そのうえで、ご家族とよく話し合い、ご本人に対するケアについては、後は思い切ってホームに任せて頂けるよう提案している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは利用者主体を基本に、次いで、ご家族の都合を十分考慮し、十分に話し合ったうえで、同意を得、サービスを決定している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフにとっては『いつものご利用者』でも、本人にとっては『誰だろう』と不安に思われているかもしれない心情を忘れずに関わるように日頃から留意している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	挨拶は社会人の基本であり、それがきちんとしたケアに繋がっていくものと考えている。ご家族との信頼関係づくりも同様の思いで配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の憩いの場、三神宮にいつも見守られていることを生活の中で感じられるよう関わっている。また、気軽に立ち寄れる雰囲気づくりに努めると共に、必要に応じ、自宅周辺へのドライブも行っている。	学校帰りのお孫さんや友人の訪問を受け入れられており、また近くの喫茶店や美容室へ出かけられたり、老人会へ参加されたりして馴染みの関係が途切れないように支援されているとのこと。	本人を支えてくれる関係だけではなく、本人が支えてきた関係にも注目して支援されることを期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居場所づくりや気分転換が必要な時に、となりの棟やデイサービスに遊びに行かれるよう促し、仲間づくりに配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前入所者家族の方が時々ホームに訪問されたり、当ホームご利用者が自宅復帰された後、再度、入居されるなど、ご家族とは日頃から繋がりを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人の思いは、そのままにしないで解決策を常に検討し、できる限り思いを汲み取り満足して頂けるように関わっている。	利用者の言葉にし辛い思いを、日々の行動や表情から酌み取り対応されているとのこと。具体的には、食が進まない利用者の心情を察し、家族へ面会を依頼したり、身体の痛みが軽減しない利用者に対して、訪問マッサージを提案されたとのこと。	本人の視点に立って意見を出し合い、継続して支援されていくことを期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者家族の面会は比較的多く、来訪された際に、近況を伝えたと共に、情報の共有を図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人の役割や思いを維持できるように、他ご利用者との関係性を検討し、その時に応じた環境づくりに配慮している。(居場所づくり、席替え等)		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは担当制で行い、介護計画の把握と共有に努めている。隣の棟やデイサービスの協力や意見も反映させている。	利用者本人の思いや意向を把握すると共に、担当スタッフや他の職種のスタッフも交えて利用者の全体像が把握できるよう情報交換し、介護計画を作成されています。	利用者の視点に立って、その人らしく暮らし続けるための個別の具体的な介護計画を更に充実されることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録を基にケアに対する課題を整理し、カンファレンス会議時に、きちんと評価しケアの統一と協働を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期受診は基本、家族にお願いしているが、必要時は訪問看護ステーションや薬局、病院に相談している。また、往診やホームで速やかな受診対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理容や理容料金の割引による家族の家計負担軽減、菜園づくりのボランティア、地元の方の野菜提供、傾聴ボランティア、慰問者などの地域の方の協力を頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及びご家族とよく話し合いながら、現在、14医療機関(病院)の支援を受けている。	かかりつけ医は本人家族の希望できまっているとのことです。受診は家族の付き添いが基本となっていますが、状況によっては事業所のスタッフが対応されています。受診状況は書面によってやりとりしておりますが、家族からの報告がない時は事業所よりかかりつけ医に直接問い合わせをされているとのことです。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションの訪問は週2回、24時間、いつでも相談対応可能		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	郡医師会病院に時々入院されることがあり、看護師長には定期的に様子を伺うことができている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	福祉事務所や包括支援センターに相談することもあり、ご家族には「運営推進会議」時に支援について説明し、今後につなげていく。	入所時に重度化や終末期における対応について話し合いがおこなわれているとのことです。医療行為が必要となった時や終末期には基本的に入院を勧められており、家族より相談があった場合は、個別に説明をすると同時に、包括支援センター等を通して適切に対応をされているとのことです。	本人や家族の意向を踏まえて事業所が対応できる最大の支援方法を検討されることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時は管理者への連絡が確実に実行されており、速やかな対応がとれるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホームは隣接する地域の境界にあり、2分団の消防団の協力が得られている。また、火災など、ホームの緊急時に備えた、消防団連絡担当者の住まいがホームの目の前にあり、速やかな対応がとれる。	事業所の前の神社が緊急避難先であり、地域の方や消防団の協力を得て、避難訓練を実施されています。更に夜間訓練の実施も検討されています。	避難誘導時の具体的な協力のあり方などを話し合われることで、新たな課題の発見につながることもあります。より一層の協力体制を築かれていくことを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家族的介護を目指すも、言葉遣いは方言を使いつつ、丁寧語で締めくり、親しみのある関わりを実践している。	便失禁時はすぐにトイレ誘導を行うのではなく言葉かけを工夫することで本人の心情に配慮した対応をされています。また利用者の表情や動作を観察し、トイレ誘導は個別に行うなど利用者の心情に配慮した関わりを持つと同時に、言葉使いに注意し、信頼関係を築かれているようです。	本人の気持ちを考えて、さり気ない言葉かけや対応を継続して支援されることを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行動を制限せず、見守りとさり気ない付き添いで自由に過ごして頂くと共に、活躍される場面の提供を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自ら隣の棟やデイにひとりで行こうとされるご利用者の対応については協力体制ができている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	数名の方には「一緒に選びましょう」と声掛けをして、自己決定を促し、洋服を選んで頂くように配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個別にできる範囲で、できることを行って頂けるように声掛けしている。	メニューは決まっておらず、季節やその日の食材に合わせて料理されているようです。おやつと一緒に饅頭をつくることもあり利用者の楽しみになっているとのことです。食器の片づけに参加していただくことで利用者の心身機能の維持・向上にもつながっているとのことです。	食事は食欲を満たし、栄養を補うだけでなく、その人の喜びや楽しみももたらしめます。今後も「食」を通した色々な取り組みを実践されることを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	拒否がある方には、常日頃の関わりを多くして信頼関係が維持できるよう、また、体調に合わせた食事時間の調整を行い、個別の対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアと口腔体操を食事前に行い、食後の口腔ケアも実施している。また、必要に応じて、訪問歯科支援し改善を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できる限りトイレでの排泄を支援する方針で、重度者については体調を考慮し、夜間はベッド上でオムツ交換を行っている。	利用者の様子から誘導のタイミングを察知し、身体機能に応じて歩行介助等行い、さりげなくトイレに誘導することで、失禁も減少したとのことです。	失禁時の対応の仕方、羞恥心や不安の軽減に更に配慮されることを期待します。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	生活サイクルの見直しを定期的に行うと共に、必要に応じて医師や訪問看護ステーション、薬局等に相談をして対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本、隔日の入浴を行っており、拒否や体調を観ながら支援している。	利用者の体調に配慮しながら個人の希望に合わせて入浴支援をされているとのことです。夜間に冬場は足浴、夏場はシャワー浴で対応されており状況によっては毎日の入浴支援もされているとのことです。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の様子を伺いながら、こまめの対応を行っている。また、昼夜逆転や活動不足とならないように、生活サイクルの確認に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	検査結果に基づき、薬処方の変更があった時は、一定期間の様子観察を行うと共に、医師に健康状態の報告を行い健康管理に繋げている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者同士の口論やトラブルを未然に防げるように、環境づくりに配慮すると共に、役割づくりや満足して頂けるような関わりの工夫を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように	運営推進会議の際に、ご家族より、外出やドライブについて質問があり、車椅子使用の方でも支援できるように、昨年に車椅子積載可能な車を購入しており、緊急時の病院受診の際にも速やかな対応ができています。	近くの喫茶店やお店へ日常的な外出をされており、利用者の心身の安定にも功を奏しているとのこと。知人の民家を訪問され縁側でお茶を戴いてリラックスして過ごされたり、外出がなかなかできない利用者には自宅への一時外出支援を行ったりしているとのこと。	家族の協力も得て、一人ひとりの利用者がさらに外出を楽しめる支援を期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持しているご利用者の方で、他ご利用者の方にあげようとする場面が観られ、さりげなく言葉かけをして問題とならないように対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠くの娘さんに、スタッフが代筆し写真を添えて郵送しており、娘さんも大変喜んでおられ、定期的に継続支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前は、離設防止のセンサーを設置していたが、家庭的雰囲気大切にすることを重視して見守り重視対応している。また、座り心地の良い一人掛けの椅子を4脚と小さなテーブルを廊下に置き、外を眺めて気分転換して頂いている。	事務所もキッチンもすべてオープンであり、フロアは明るく開放的で採光も十分取り入れられています。通路には絵画が飾られ、壁には利用者がスタッフと一緒に制作された作品が季節に合わせて展示されていました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	同じ場所に長時間居ることのないように、手引き歩行介助にて環境を替え、言葉かけを行いスキンシップを大切にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できる範囲で居心地のよい部屋づくりを行っている。また、物があることで危険のリスクがあるご利用者の部屋については、心身の健康を優先に配慮している。	ベットやタンス等がシンプルに配置されています。それぞれの居室にはお孫さんや家族の写真が飾ってあります。	居心地よく過ごせる個室の工夫を期待します。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所が分からない方には、表札や掲示板を設置して、声掛けと誘導を行いながら安心を促している。また、玄関先の段差で転倒されないように、見守りと言葉かけで防止している。		